

生活と安全を守る



古畑 秀夫
(市民派連合)

◆市の財源確保について

問 昨年度のふるさと納税の総額と経費などを除いた実収入額はいくらか。

答 寄付総額は2億3千9万円余であり、実質の収入額は約1億2千945万円となり前年度より、約8千万円の増額となっている。

◆鳥獣被害対策は

問 農作物を守るため、どのような対策を取っているか。

答 ①徹底した個体調査②生息域からの進出を許さない緩衝帯整備③農家による防除対策支援を柱にしている。

問 カラスの被害対策はどのようなになっているか。

答 カラスを捕獲する檻を片丘に2カ所、宗賀、洗馬に各1カ所設置し対応している。昨年度、カラスの捕獲数は624羽であった。

◆新体育館の避難施設は

問 トイレ、電力などの設備面、飲料水などの物資面はどうか考えているか。

答 非常用発電設備の設置を

予定している。また、屋外に臨時的に設置するマンホールトイレは、雨水再利用なども含め検討している。物資面では、食料や飲料水などの備蓄についても検討していく。

◆歩道整備の進捗状況は

問 県道上今井、洗馬線の洗馬小学校周辺の用地取得状況はどうか。

答 8月末現在で6割弱の用地を取得済みとなっている。

問 県道中原交差点周辺の拡幅した、車道部分の整備を早期に実施されたい。

答 県からは、補正予算で対応したいと伺っている。



早期の整備が求められる中原交差点付近

教育施設や福祉施設の整備を急げ



永井 泰仁
(自民党)

◆平成28年度決算について

問 経常収支比率が、91.7%に上昇しているが、経常経費抑制策と職員数の変化は。

答 行政評価の中で、事務事業の費用対効果を検討し、選択と集中を図り、事業部主体のスクラップ&ビルドにより経費削減に努める。職員数は、平成24年度489人、28年度525人と、事業の拡大に伴い必要な人数を配置している。

◆新広丘児童館の早期建設を

問 広丘児童クラブは本館・分館の2カ所で開催しているが、総合施設が喫緊の課題。

答 本年9月の登録児童数は本館108人、分館30人と手狭になっている。建設場所は広丘小学校に隣接する旧勤労青少年ホーム跡地で、施設解体後、150人規模の新児童館を検討中であり、建設時期は、実施計画で協議して具体的に示す。

◆介護保険事業の拡大

問 西部地域包括支援センター新設の考えは。

答 洗馬・宗賀・楢川地区を

西部圏内とし、老人福祉センターすがのの郷を売却条件に、本市の委託を受けた法人が、センターの設置と運営をするもので、年度内に法人を公募し、平成32年4月開所を目指して準備を進めている。

◆市道黒崖野村公民館西線に歩道設置を

問 市道の東側に幅員2mの歩道を設置して安全確保を。

答 この市道は、丘中学校や広丘野村保育園等の通学・通園路に利用され、保育園南側の約200mは幅員が狭いので、整備手法を地元区等と相談し、早期実現に向け検討する。



市道黒崖野村公民館西線